生田先生の思い出

田中康夫

生田先生とは本当に長くお付き合いをさせていただいた。そして生田先生の存在は私の人生にとって、とても大きなものであった。

生田先生と親しくお付き合いさせていただくようになったのは、生田先生を指導教授として私が慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程に入学した時からである。学部生のころは堀江湛先生のゼミで学ばせていただいたが、当時まだ堀江湛先生は助教授で大学院の指導教授にはなれないということで、生田先生に指導教授をお願いし、「マス・メディアと政治」をテーマに研究を始めたのである。それ以来ということになるので、実に四〇年以上になる。

そのころすでに、生田研究室からは研究者として、鶴木眞先生、伊藤陽一先生、真鍋一史先生、小川浩一先生らを輩出しており、先輩の先生方に、いろいろお世話になった。また、新聞研究所（現メディア・コミュニケー

ション研究所）にも顔を出すようになり、東季晴先生、岩男寿美子先生にも大変お世話になった。大学院では、霜野先生や十時先生ら、生田先生のお仲間の先生方にも大変お世話になった。

当時の思い出といえば、やはり毎年行われた長野県、野尻湖での合宿だろう。それは新聞研究所の合宿だったと思うが、当時、生田先生は新聞研の合宿と生田ゼミの合宿を続けてなさっていたようにも記憶している。また、鶴木先生のゼミ合宿と同時開催もあったように記憶している。

いずれにせよ、二泊三日ないしは三泊四日の楽しい合宿だった。ボートに乗ったり、キャンプファイアをしたり、釣り堀に行ってニジマスを釣り、それを料理してもらって昼食にしたり、夜遅くまで飲みながら生田先生の話を聞いたり、時には、東先生、鶴木先生、伊藤先生、小川先生らと車で寄り道しながら帰ったこともある。何を勉強したのかあまり覚えていないのは恥しい限りだが、楽しい思い出は、次から次へと蘇ってくる。

当時、東季晴先生や鶴木眞先生から就職の心配をしていただいた記憶や、洗足学園に就職後、新聞研究所の非常勤講師としても参加した記憶があるので、野尻湖での合宿はかなり長期にわたっていたと思う。

また、お正月には毎年、生田先生のお宅に伺い、奥様にいつも優しい笑顔で迎えていただいた思い出も忘れ難いものがある。生田先生は和服で客間に陣取り、次から次と訪れるお客様のお相手をしていた。生田家のお正月はいつも、遅くまで多くのお客様でにぎわっていた。また、生田ゼミのＴＡを務めさせていただいたことも楽しい思い出である。

その後、小川先生のご紹介で東海大学に移り、文学部長と文学研究科委員長を務めるようになった時はとても喜んでいただいた。また二〇〇七年の創立一五〇年記念講義の折には、三田で卒業生とともにミニパーティを催し、生田先生も元気で大いに飲んでおられた。私は、その年の一〇月に東海大学副学長となり、残念ながら、それからはあまりお会いする時間がとれなくなってしまった。

生田先生というと、あの笑顔が思い出される。先生はいつも人を大きく包み込んでくれるような存在だった。また生田先生を通じて多くの方と知り合い、当時学生だった方も含め、三〇年、四〇年経った今でも、多くの方と親しくさせていただいている。私が現在あるのも、生田先生をはじめとして、生田ファミリーともいえる諸先生方のおかげであり、心から感謝している。

生田先生、本当に有難うございました。安らかにおやすみください。